第 110 号　2020 年 5 月発行

チャレンジ工房 news

発行先　パソコン工房チャレンジ
編集責任者　　曲　圭子

工房の日々

五月晴れが続く、過ごしやすい天候の毎日がここ数日続いていますが、皆様コロナ疲れなど出ていませんでしょうか。

工房付近の水明公園のバラも医療関係の方、すべての未知なるコロナウイルスと戦っている人々に応援するかのように、公園一帯に色鮮やかに咲いています。

「5 月には、コロナも落ち着いていると思うから、花見会ができない分バラ鑑賞会でも企画して所員さんと楽しむことができたらいいのにね」と 3 月末スタッフで話していましたが、「緊急事態宣言」が今月末まで延長されたため、そんな楽しい企画さえもできなくなってしまいました。

コロナウイルスの感染拡大を完全に終息させるためには、不要不急の外出を控えたり、手洗い、アルコール消毒の徹底などの今私たいちにできることをやっていくしかないと考えています。

今後の予定

今後の予定は未定です。

※所員さんには、決まりしだいお知らせします。

当工房の所員さんに「この外出自粛によるおうち生活をパソコンをすることで、少しでも充実して貰うことができたら」と思い、先月よりパソコンやテキストを各自に貸し出して、質問や生活相談を電話・メール・LINE などでスタッフが対応しています。

アニメのキャラクターのイラストを描くのが好きなMさんは、「工房からパソコンを借りて貰ったおかげで、イラストレーターで好きなイラストを描いたりして充実した毎日を送っています」と喜んでくれています。

私たちも含めて障害者は基礎疾患を抱えっている人が多くて、かなり用心して生活介護、ガイドヘルパーの利用や通院を控える人がほとんどで、どうしても家で嘘立しがちです。

今スタッフで「Z00M」などのオンラインのコミュニケーションアプリを活用して、オンラインでの指導研修はもちろん、最近流行している「オンラインでの茶話会を企画して、所員さんもスタッフも楽しめることができるといいのに」と話をしスタッフ３人で工房と各スタッフ宅をネットで結んでオンラインでのスタッフ会議をして、使いかたを練習しています。

もちろん所員さんもスタッフもみんなで工房に集い、和気あいあいとコミュニケーションをとりながら、毎日の研修や工賃仕事をするのが一番だと思っているので、１日でも早くコロナが終息して日常の生活に戻れるように願うばかりです。

５月連休中の所員さんの一言

今年はゴールデンウィーク連休中もウィルス対策で家にこもりきりでした。家で自習のできるよう Word の入った」ノートブックを貸し出しましたが、どのように過ごされたでしょうか。往復はがきを出させていただきました。5 人の方から返事をもらいました。返事を書いていただいた方の一言を紹介します。

＜ゴールデンウィークの過ごし方＞

・ワード勉強しています。再度　いや何度でも挑戦します。孫たちがＰＣ、ネットで会社や学校とやり取りしています。私も文明の利器を早く、いや確実に自分のものにしたい。趣味の写真もマスターしたい。疲れた時は近場に写真撮りに。息抜きです。ＰＣは最高の趣味です。

・コロナウィルスの影響でパソコン工房に行けず、家ではパソコンをする気がしません。家事の手伝い（体力がないので）ゆっくりいろいろしています。ウォーキング、数独（数字パズル）です。パソコンは記憶力の関係で進歩しません。覚えてもすぐ忘れます。

・お借りしたパソコンの教科書を忘れてしまい、ゴールデンウィーク中、何もすることがありません。＜＝ 持っていければよかったですね。

・今年はコロナウィルスが流行して外出などが思ったように出来ず家にいることが多くなり、インターネットで行きたい所や買いたい物などを見て楽しんだり、家の片付けをしています。

＜感想＞

・コロナ　街中すっかりかわりました。近くを散策して感じます。すっかり変わったなと、新しいことがおこりそうです。

・こんな状態で工房に行ってよいものかどうか迷っています。　＜＝ お会いするとニコニコしてしまいます。自分のペースでかまいませんのでぜひおいでください。（スタッフ）

＜思うこと＞

・コロナウィルスが無くなり、いつもどうりの生活に早く戻れるように願っています。

今年も東北作業所物品の予約販売をいたします。ご協力ください！

1995 年 1 月 17 日、わたしたちは阪神淡路大震災にみまわれました。ビルが倒れ、高速道路が土台から倒壊するのを目の前に見ました。そのとき全国の障害者組織や市民団体・個人から気持ちのこもった救援が届きました。

16 年後の 2011 年 3 月 11 日、東北地方に大地震と津波が押し寄せ多くの家や人が流されました。私たちにできることはないだろうかと、ターミナルに立ち、義援金を直接被災地へ届けるカンパ活動を行いました。その縁で宮城県仙台障害者作業所の物品販売を支援することとなり 9 年間続けています。「売価で買って売価で売り代金を作業所へ届ける」、販売経費は法人の非営利活動として法人が負担する方式を続けています。

今ではすっかり味を覚えていただいて「もうそろそろイチゴジャムの時期やね」とか「あのクッキーをおやつに食べてたけどすぐなくなる、また注文できるやろか」「味みそ、ビールのつまみにまたほしいわ」と問い合わせが来ます。

今年も販売予約をします。締め切りは少し遅くなって 6/30 とします。翌日、最終数を発注し、7 月半ばに郵送し始めることが出来る予定です。昨年同様、同封の「予約注文書」に数量を書き込んで、ファックス、メールなどで送ってください。直接携帯 090-8793-2133 へかけていただいても結構です。手渡し以外の郵送分は一律 500 円のご負担をお願いします。

東北のみなさんも私たちと同様、日々の生活をこつこつと積みあげておられます。コロナ禍のいまこそ、分断を排し、人と人のつながりを大切にしてすすみましょう。　　NPO 法人尼崎障害者センター　代表理事　広瀬　徹